

氏名： 小谷 眞男
 所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
 職名： 准教授
 学位： 学術修士（1989 東京大学）
 専門分野： 基礎法学（法社会学、比較法文化史、イタリア法文化論）
 sociology of law and comparative legal culture, especially of Italy
 E-mail： kotani.masao@ocha.ac.jp
 URL：（日本語版） http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Kotani.html
 （英語版） http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/e_Professors_Kotani.html

◆研究キーワード / Keywords

イタリア／比較法文化／法社会学／法と文学／社会福祉

Italy / comparative legal culture / sociology of law / law and literature / social welfare

◆主要業績

総数（6）件

- ・『《研究動向》里親委託という主題 --- 「家族的養育委託（affidamento familiare）」に関するイタリアの研究動向より ---』（『家族社会学研究』21(2), pp.21-27, 29年1月）
- ・『ヨーロッパの司法統計 I, II』（佐藤岩夫ほか4名と共著、東京大学社会科学研究所 Research Series no.38、21年3月、pp.126+146）
- 小谷分担執筆：「第4章 イタリアの司法統計」（vol.II, pp.69-129）
- ・研究報告「“badanti”の時代におけるイタリア家族像」（国際シンポジウム「日本の中の《イタリア》：文化表象にみるイメージの社会構築をめぐる」、29年11月6日、早稲田大学）
- ・研究報告「統一刑法典編纂と国民国家“イタリア”の形成」（イタリア統一15周年記念シンポジウム「イタリア人を創る --- 自由主義期イタリアと国民国家形成 ---」、29年12月19日、日本女子大学）
- ・「喜怒哀楽を生きるイタリア人：「生（vita）だけが生きることを教える」」（『Excellent Italy Bella Italia』no.1, pp.34-39、29年11月）

◆研究内容 / Research Pursuits

- | | |
|--|---|
| 1) 名誉と恥をめぐるイタリア法文化についての比較史的研究の包括的再検討作業に入った。関連して1889年統一イタリア王国刑法典編纂過程の分析結果について研究報告をおこなった（業績4）。
2) 現代イタリアの社会福祉についての共同研究の作業を進めた。イタリアの里親委託制度に関する研究動向サーヴェイを執筆した（業績1）。また現代イタリア家族像について、とくに外国人ホームヘルパーの急増という視点から検討する研究報告を国際シンポジウムでおこなった（業績3）。
3) 法と文学を基盤とする新しい教養法学の構想を検討した。
4) イタリア司法統計についての研究をまとめた（業績2）。写真は、イタリア最高破毀院（最高裁判所に該当）正面玄関の「正義の女神」像である。
5) C.Beccaria, “Dei delitti e delle pene”（『犯罪と刑罰について』、1766年版）を原典イタリア語校訂版から日本語に全訳（訳注付き）する作業を進めた（21年度後半に翻訳が刊行される予定）。 | 1) Research on the Italian legal culture, especially from the historical viewpoint
2) Research on the social welfare of the contemporary Italy
3) Explore the themes of “law and literature”
4) Research on the judicial statistics in Italy
5) Translation of Beccaria's masterpiece in Japanese |
|--|---|

◆教育内容 / Educational Pursuits

生活法学演習Ⅰ・Ⅱ、生活社会科学演習、生活法学総論、消費者科学入門（消費者法の分野を分担講義）、法学Ⅱ（法学入門）、生活法社会論等の諸科目において、生活世界と法システムの関係および法文化をめぐる諸問題について、さまざまな角度から、法社会学的に検討した。

Lectures and seminars on the sociology of law and the comparative legal cultures.

◆研究計画

- 1) イタリア法文化研究を比較法文化論一般に展開させていく構想を温めている。
- 2) 法と文学についての研究、法のナラティブ的理解という Vico 的方法論の枠組みを活用して、21 世紀の市民的教養としての法学教育のための一風変わった法学入門書を執筆したいと考えている。
- 3) ベッカリーア『犯罪と刑罰について』の完全翻訳版の公刊（21 年度後半を予定）。ベッカリーアの市民社会論の研究。
- 4) マリオ・パガーノ『刑法典の原理』『刑事訴訟論考』の翻訳作業。近現代イタリア刑事法学史の研究。
- 5) イタリア司法統計史についての調査研究を掘り下げる
- 6) イタリアにおける国民国家形成とイタリア法の生成という問題の追究
- 7) イタリア社会福祉についてのコムーネレベルでのケーススタディ

◆メッセージ

一所不住、雲水行脚、必ず樹下石上を宿とす。異国の土を踏もう。世界は広く、かつ深い。